

矢作川流域圏懇談会通信

R1 山部会編 vol.2



発行日：令和元年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第52回山部会WGを開催しました！

7月19日(金)に第52回山部会WGが根羽村にて開催されました。今回は、平成24年から山部会が取り組んできた「山と山村」「森林」という2つの課題に対する4つの解決手法(流域圏担い手づくり事例集、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドライン)に関する進捗報告と意見交換を行いました。また、懇談会発足10年のとりまとめに関して、流域圏年表の素案に対する意見交換を行いました。また、矢作川感謝祭の活動内容を情報共有しました。



日時：令和元年7月19日(金) 13:30~16:30

場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」 やまあいホール

参加者：13名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について

《事例集交流会 2019 の開催》

流域圏担い手づくり事例集の作成によって育まれた人のつながりをより深め、広めることをめざした事例集交流会が、去る6月22日(土)に岡崎市で開催されました。30名が参加し、大変有意義な議論が行われました。

《流域圏懇談会 10年史編集委員会の始動》

事例集交流会の話し合いの中で、本懇談会が設立10年を迎えることから、これまでの成果を振り返り、今後の方向性を考える年にしたいという意見が出ました。今年度は、事例集の作成は行わず、10年間で得られた内容を考察します。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

豊田市では、「森林・林業に関わるさまざまな人材の育成と一般市民への普及」を目的として、公開講座(とよた森林学校)を開催しています。以前は、信州大学名誉教授である島崎先生(初代森林学校の校長)とお弟子さんが講師を勤めていましたが、校長が交代したことをきっかけに、豊田市で講師を育成させる必要が生じました。現在、豊田市だけではなく流域の森林組合に対して声を掛け、講師の育成を通して、流域内交流を模索しています。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

《水源の森林づくりガイドブック(林野庁治山課)》

このガイドブックは、水源の森林づくりの活動が適切かつ有益となるよう、最新の研究成果や地域の事例をもとに作成されたものです。特徴としては、「森林は水をためると同時に水を消費することを明記したこと」。及び「水源涵養機能の効果があらわれる間伐率を科学的根拠として5割(保安林の間伐率の上限35%)を明記していること」です。また、全国の先進事例の中には「新・豊田市100年の森づくり構想」が掲載され、目標林型に向けた施業方法や人材育成を示しています。

《水源涵養機能の高度発揮に向けた水源林造成事業のあり方》

水源涵養機能を高度に発揮する造成方法について、主に造成事業を行う林野庁整備課が科学的根拠を示した資料です。この資料の中では、針葉樹と広葉樹の蒸散量の違い、長伐期化による水源涵養機能の向上、海外の植林密度による課金方法の違い、目標林型に向けた具体的森林施業体系の確立に地上レーザ計測を活用することに着目しています。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

《木づかいガイドラインの作成》

- ① 昨年度末に依頼した流域自治体に対する木づかいの事例と取材協力について、今後は呈取表で整理したい。
- ② 自治体以外で木づかいの事例があれば収集したい。
- ③ 懇談会設立10年における木づかい推進の実践事例をふまえたガイドラインの構成を以下のように考えている。
 - 1) 流域内で実践されている木づかいの事例紹介
 - 2) 流域市民(大人から子どもまで)の木づかい推進の思想と取り組み
 - 3) 木づかいライブスギダラキャラバンについて

5. 懇談会発足10年のとりまとめと流域連携イベントについて

《流域圏年表》

流域圏年表は、地域部会(山・川・海)と市民部会に共通するとりまとめの手法として、全体会議において承認されたものです。本日は、山部会に重点をおいた年表の1950年(昭和25年)以降について一覧を作成しました。主な項目としては、①社会(流域人口、産業、公害)、②行政(法律の制定等)、③自然災害(全国規模と流域規模)、④流域の動き(公的機関、企業・市民団体)、⑤木材生産(木材価格の推移)として整理しています。

《矢作川感謝祭 2019 の活動内容》

9月8日(日)に行われる矢作川感謝祭では、懇談会の活動について洲崎さんにご報告いただくとともに、流域圏に関するクイズ大会を実施し、参加する市民に対して矢作川について啓発し、流域関連のグッズ(下敷き)を配布する予定です。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集

《流域圏懇談会 10年史編集委員会》

- ・ 開催案内や参加形態など懇談会員への周知はどのようにするのがよいか。(事務局)
 - ▶ 熱意のあるメンバーが勝手にやっているということにならないためにも、参加者の公募は必要かと思う。ただし、想定外に大勢の人が参加を希望するなど、収集がつかなくなる覚悟も必要だ。(洲崎)
 - ▶ 編集委員を浜口氏(山部会)、洲崎氏(山部会)、近藤氏(海部会)、高橋氏(海部会)の4名にすることは、山川海合同でやっている事例集交流会で決まったことなので、部会員への募集はサポート的立場のオブザーバーとしての役割を担っていただければよいのではないか。(蔵治)
- ・ 矢作川流域圏懇談会と事例集のメーリングリストで周知したい。方向性は第一回編集委員会で議論する。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・ 間伐ボランティア初級講座の講師は、豊田森林組合の6、7人が担うことになっている。これは前半を豊田森林組合、後半を流域の4つの森林組合が行うことにしてはどうかという意味である。(蔵治)
- ・ 学びの場と交流の場を林業素人のプロが先頭になって流域の森林組合に呼びかけることにしたい。根羽村森林組合ではどのような動きがあるか。(丹羽)
 - ▶ 我々もいろいろなテーマを持って勉強会をしようとしているので、今の提案は、その連携版であると感じた。個々の森林組合を逸脱して、共通のテーマがあれば、お互いに刺激になると考えられる。矢作川流域の山を考える実践者たちの集まりとなればよいと思う。(今村)
- ・ とよた森林学校を核として、流域内交流の研鑽の場づくりにつなげるのが一番よい戦略だと思う。(丹羽)
 - ▶ とよた森林学校の講座に、流域圏講座というものがあるのもよいと思う。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン

- ・ 昨年制定された森林経営管理法では、森林環境譲与税を原資として豊田市スタイルの森林管理を全国の市町村で行うことになった。そのため、豊田市が現在経験している失敗も、きっと全国で繰り返されるであろう。(蔵治)
 - ▶ 豊田の成功例として全国に伝えるべきことは、森づくり委員会の役割である。制度に疑問を生じたとき、臨時会議を50回以上も設けて議論を重ね、行政に働きかけたことだ。それが伝わらなければ、失敗する。(丹羽)
- ・ 森の健康診断では、林業関係者と研究者の協働によって、地域は大きく変わったと感じた。ガイドラインも同様に、現場作業員と研究者のやりとりが反映されるべきものだと思う。(丹羽)
 - ▶ 現場作業員が参照できる資料をつくるというのは、常に意識しながら議論してきた。作業員に参照されなければ絵に描いた餅にしかならない。作業マニュアルになればよいと考えている。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・ 事例収集の対象者について、流域圏担い手づくり事例集の取材対象団体を活用していただきたい。これまでに取材対象にした102団体の中には、森づくりと木づかいに取り組む団体が多く含まれている。例えば、自然観察、木工製品、薪づくりを行っている団体などがあったかと記憶している。縦軸に活動団体、横軸に活動内容を整理すれば流域の状況がわかり、WG等で議論できると思う。(洲崎)
- ・ 森林認証制度の中で希少種の生息分布の図示が明記されているが、根羽村の茶臼山周辺の調査は自分が行っているため、情報提供が可能である。(高橋)

●懇談会発足10年のとりまとめについて(流域圏年表)

- ・ 記載内容が愛知県に偏っているため、矢作川流域である長野県、岐阜県のデータも加えること。(蔵治)
- ・ 西暦2000年を境にページを分けて、東海豪雨(恵南豪雨)以降を少し具体的に示してはどうか。(洲崎)
- ・ 矢作川とつながりの深い関係団体、森林組合の発足や統廃合については、漏れなく示してほしい。(今村)



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、10月25日(金)~26日(土)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

